

週日の説教

金 大烈 神父 2011年9月10日(土)

《良い実を結ぶ ～み言葉に耳を傾け、実践しようと頑張りましょう～》

これから簡単な質問をしますので、少しの間、目を閉じてください。

私は善い人だと思う人は、手をあげてください。

私は悪い人だと思う人は、手をあげてください。

では、善い時もあるし、悪い時もある、と思う人は手をあげてください。

ありがとうございました。

皆様の答えが、善い人であっても悪い人であっても、どちらでもよいのです。私は善い人だと思った人は、善い人にふさわしい生き方をしようと頑張ればよいと思います。悪い人だと思った人は、恵みがなければ悟れないのだから、大きな恵みをいただいていることになります。これから悔い改めながら、もっと自分らしいもっと素晴らしい人生を作ろうと頑張ればよいのです。問題は、自分が善い人か悪い人かさえ考えない人です。人間としてこんなことができるのか、と思うくらいの悪い人を見た時、私達はその人を鏡として自分の姿を見る必要があります。一番大事なことは、時には、「ああ、私は悪かった。」と思い、また別の時には「ああ、これをしてよかった。」と思う気持ちを保つことです。

今日の福音(ルカ 6:43 - 49)では、イエス様が「良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。」とおっしゃっています。これはどういう意味でしょうか。人の善悪は、生まれつき定まっているということでしょうか。「悪い人間として生まれた人は、いくら頑張っても悪い実しか結ばない。良い人間として生まれた人が、良い実を結ぶ。」そのような意味でしょうか。いいえ、そうではありません。私たちの神学、私たちの信仰によりますと、お母さんが神様から命をいただいた時、その命の種はみんな、きれいで純粋な、汚れない素晴らしい種なのです。しかし、その種がこの世の中に出てからいろいろな傷、いろいろな否定的なことを体験しながら、曲がってしまうのです。

ですから、なぜ私はこういう面で、こんなに敏感になってしまい、悪くなってしまうのか、と思われる時には、そのような傷を受けたのです。しかし、傷は誰でも受けます。傷のない人間はいません。ただ、傷を超えられなくて負けてしまった結果、このような自分になったのです。

私たちが神様から最初に命をいただいた時、それは良い実を結ぶべき存在でした。しかし、悪魔は黙って良い実を結ばせはしません。だから、頑張ってください。死ぬときまで、善い存在でいられるように頑張ってください。なぜならば、善い人でなければ、約束された国には絶対に入れないと、今日の福音でもイエス様がおっしゃっているからです。

善い人であるためには、基本が必要です。その基本は、み言葉に耳を傾けて、それを実践しようとする心です。それがなければ、私たちは崩れてしまい、絶対良い実を結ぶことはできないと思います。

私たちには可能性があります。まだ完成していない状態、まだ変われる状態、それを可能性と言い

ます。その可能性によって、私たちがどのような形を作るかは、自分次第なのです。

「良い木は良い実を結ぶ」ということは、結局、善いみ言葉、イエス様のみ言葉に耳を傾けて、それを実践しようとする心がある限り、いろいろな失敗があっても結局イエス様のところに行くことができるという意味です。皆様も、イエス様のみ言葉に耳を傾ける生活をしています。ただ、その通りに生きているか、そのとおりに生きていないかだけをいつも意識してください。

今日の福音は、ある意味で、本当にきつい深刻なイエス様のみ言葉であることを意識しましょう。ありがとうございました。

ミサ後

今日の一番大きな結論は、“罪人が悪い人とは限らない”ということです。

罪はだれでも犯すものです。善い人でも罪は犯します。善い人ほど、自分がどのくらい罪を犯しているか、よくわかることになります。ですから、罪と、善い人・悪い人を関連させて考えないでください。聖人は罪を犯さないで聖人になったわけではありません。聖人は、自分が犯した罪を徹底的に認めた人です。そして憐れみを願った人です。それが聖人です。私たちも聖人と条件は全く同じです。罪を犯します。しかし、その罪に縛られていつも自分を責めてしまうと、もっと悪い実を結ぶことになってしまいます。ですから、罪を犯したと思ったら、悔い改めるべきです。そして何とか恵みをいただくよう努力すればよいのです。それが何よりも大事なことです。

忘れないでください。私たちは罪を犯しますが、犯してからどうするかによって、^{まこと}眞の信仰者かどうかが決まることを意識しましょう。

ありがとうございました。